

## <遠足1年 品川水族館 >

5月27日（金）は、待ちに待った初めての遠足でした。雨が降ってなければ神代植物公園に行く予定でしたが、残念ながら朝から雨…。2年生と同じ品川水族館に行くことになり、喜んでいる子供たちもいました。

初めての遠足に出発前からとてもわくわくしている様子が見られました。品川水族館に着くとすぐにお弁当をいただきました。自慢気にお弁当箱を見せ合いながら、「みんなで食べるお弁当はおいしいね。」とにぎやかに友達と食事をし、とても満足そうでした。サメやイルカを間近にしたときには「わー、大きい。」と驚いていました。一つ一つの出会いに子供たちが目を輝かせていたことが印象的でした。道路の歩き方やバスでのマナーを確認しながら、みんなで学校に帰ることができました。校外に出て集団で行動することをたくさん学んだ一日となりました。何より全員が笑顔で無事に終えることができ、最高の思い出となりました。



## <英語活動>

平成23年度から、小学校において学習指導要領が改訂され、第5・6学年で年間35単位時間の「外国語活動」が必修化されました。沓掛小学校では、第5・6学年の「外国語活動」で英語活動を実施しています。また、第3・4学年では、年間10時間、第1・2学年では、年間5時間の英語活動を行っています。

杉並区では、『すぎなみ9年カリキュラム（外国語教育編）』を作成し、義務教育9年間を通した一貫性のある外国語教育の全体像・系統表を作成して、外国語教育を実施しています。

その中で特に重要なのは、小学校から中学校への導入・接続です。小学校の外国語活動は音声を中心です。つまり、「聞く」「話す」の2技能を中心にした小学校のコミュニケーション活動から、「聞く」「話す」「読む」「書く」の4技能を統合した中学校のコミュニケーション活動に円滑に移行できるようにしていくことが大切です。

2020年度、東京オリンピック・パラリンピックの年から、小学校5年生から英語が教科となります。それに向けて、いよいよ外国語活動にも、これまでの活動に加えて、「読む」「書く」の技能が本格的に必要になってきます。文科省もそれに向けて、これらを意識した活動を取り入れるような動きをみせています。

本校の英語活動は、担任とALT（Assistant Language Teacherの略。日本人教師を補佐し、生きた英語を子供たちに伝える英語を母語とする外国人）による授業と、担任と日本人サポーターによる授業があり、どの学年でも、ネイティブの外国人の先生方や英語に堪能な日本人サポーターの先生方と生きた英語に触れ、楽しく取り組んでいます。英語劇やゲームを取り上げるなどの実践的な活動を通して、子供たちは様々な力を付け、それらの力が中学校で生きているようです。今年度も、充実した外国語活動となるよう、サポーターの先生方と連携しながら進めていきたいと思っております。